

東雲地区タウンミーティング（要約）

テーマ：東雲地区のまちづくりについて

令和6年4月26日（金曜日）

【市長】 皆さん、改めましてこんばんは。今日は週末の金曜日でございます。いろいろとお忙しかったのではないかなと思いますけれども、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。また、本日の開催に際しましては、東雲地区町内会連合会の会長さん、そして、東雲公民館長さんを初め、地区の役員の皆さんには大変お世話になりました。ありがとうございます。さて、この松山市のタウンミーティングですが、私が市長に就任をさせていただいた当初から開催をしています。市長の任期の1期目、松山市は旧北条市、旧中島町と合わせて41地区に分かれるのですが、その地区ごとにタウンミーティングを開催していきまして、1期目ではちょうど2巡りさせていただきました。そして、2期目からは、この地域別のタウンミーティングに加えて、世代別のタウンミーティング、職業別のタウンミーティングをやっています。世代別のタウンミーティングは、高校生世代に集まっていたりとか、大学生専門学校の方々に集まっていたりとか、また、若手の社会人の方々に集まっていたり、子育て世代の方々に集まっていたり、働き盛りの方々に集まっていたり、また、人生の先輩であるシルバー世代の方々に集まっていたりしました。職業別のタウンミーティングは、例えば、農業分野の方々に集まっていたり、商店街の方々に集まっていたり、また、コロナで経済が大きく影響を受けている時には、経済の実態をよく知っていらっしゃる金融機関の方々に集まっていたりしました。3期目からは、これまで参加された皆さんから、タウンミーティングに行って市役所の取り組みを知ることができてよかったという声を多数いただきましたので、今日も意見交換の合間に、広報タイムを2カ所設けさせていただいて、現地現場で汗を流している職員から、生活に役立つ情報をご紹介します。今日のタウンミーティングで、通算136回目のタウンミーティングということになります。いただいたご意見は、できるだけこの場でお答えをして帰りますが、中には、国と相談しなければいけないもの、愛媛県と相談しなければいけないもの、そういったものは、いい加減な返事をして帰るわけにはまいりません。また、財政的によく考えなければいけないもの、そういったものも、いい加減な返事をして帰るわけにはまいりませんので、できるだけここでお答えはしますが、そういったものは一旦持ち帰って、1カ月を目処に、必ずお返事をするというのが、松山市の聞きっぱなしにしない、やりっぱなしにしないタウンミーティングの特徴でございます。今日は、これからの東雲地区のまちづくりについて、有意義な意見交換ができればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【男性】 お世話になります。愛媛銀行本店の裏通りに大きなマンホールがあるのですが、そこに向かって、持田町の气象台からずっと水が下がってきます。銀行の裏、それから私の裏の通りの東高から勝山通りに向かって水が流れます。高さは2 m以上あるのではないかと思います。そのため、大雨が降ったり、台風・豪雨がある時には、水が銀行の近くに溜まる。私どもの裏は、突き当たった水が逃げるところがないので逆流して、市の下水道から私の敷地内に逆流して、トイレの水がカクカク言い出しまして、もう今にもこぼれそうになったら、私はたまげて、自分が作っている大きな砂袋があるのですが、その砂袋を私の家の境のマンホールに沈めるんですね。そうしたら市の水が入らない。その代わり、私のところは流れないので、庭にはもう川のように水が来ます。一時的なものです、そこに自分が作った砂袋を入れて何とかしのいでいるのですが、町内の人もみんな知っていますので。ここ10年、野志市長になられてから3期、どうなんでしょうかね。12年ぐらい前から、私は何回も町内の者を連れ立って、企業局の水道を管理している下水道課にお願いしても、そうですかそうですかと聞くだけ。そのうち、何回か行っていると、これは勝山通りの本管を入れ替えないとどうにもならないので、私たちの力ではどうにもなりません。偉い人の方には意見を上げておきますと言われて、もう12年ぐらいになります。ここ5、6年は町内で何回も一緒に連れ立って、企業局の方へ行く。私個人でも、5～6回は足を運んでお願いしています。この管を入れ替えるのは、14～15億かかるので、これは大きな問題だからと言われるのですが、私が普通の生活をできるのは、いつになったらできるのでしょうか。

【都市整備部副部長】 ご意見をいただいた場所の冠水対策は、上流側から雨水の流量をできるだけ減らすことが有効だとは考えています。これまで、地元水利組合からもご協力いただいて、ちょっと古いのですが、平成10年に附属小学校の東側に雨水の処理施設を作りました。平成12年には上流域の雨水を石手川へ放流するため、バイパスの水路を整備させていただいています。平成26年には、河川が増水した時に自動で開いたり閉まったりするゲートを設置するなど、今までは段階的に上流側の対策をさせていただいています。これらの対策で、大雨の時でも車両が何とか通行できる程度までは冠水を減らしています。さらに大雨の時には、先ほどの雨水の施設に流れ込む水量を職員が現地で確認しながら、できる限りきめ細かく調整はしていますが、改めまして今回ご意見をいただきましたので、先ほどご意見いただいた場所を再度調査させていただいて、関係課、企業局になるのですが、そちらの方と有効な冠水対策を検討していきたいと思っています。

【男性】 逆流してマンホールが全部開きます。お隣に町内会長いますけど、いつも見てもらうけど、そういう状態ですから、これは普通の生活ができるように少しは考えてくれないと。あそこの附属小の横に作ってもらった時には、だいぶ銀行辺りが水浸しで、新聞やテレビがいつも来ていましたが、その件はだいぶ減りました。でも裏通りの私の家の通りは全然変わっておりません。

【市長】 お気持ちとてもよく分かります。トイレの水がガブガブ言い出したりしたら、それはご不安だと思います。先ほど申し上げたように、平成10年の附属小学校のところの貯留槽、平成12年の石手川へのバイパス、平成26年にゲート、いろいろ作らせていただいているのですけれども、今、ものすごく雨の降り方が以前と変わって、気象台のデータでも出ているのですが、雨が降る時はものすごく降って、降らない時は極端に降らない。私達が小学校の時、日本は温帯気候だと習ったのですが、亜熱帯になっているのではないかなと思うくらい、ものすごく降る時には降るようになりました。先ほど申し上げたように、改めて今回いただいた場所の状況を調査させていただいて、関係課と有効な冠水対策を検討していきたいと思いますので、どうぞご理解ください。よろしくお願いします。

【男性】 持田に住んでいて、普通の生活ができないような場所ではいけませんので、よろしくお願いします。

【女性】 最近増え続ける野良猫の問題についてのお願いです。皆さんも野良猫で困っている方がいらっしゃるかと思いますけど、地域では猫好きな方が無責任に餌を与えて可愛がるだけで、不妊とか去勢をしない限り増え続けているんです。これはやっぱり、この地域に限らず、いろいろお話を聞きますと、松山市全体でも野良猫問題は多いのではないかなと思っています。保護猫として引き取られる猫はまだ幸せなんですけど、殺処分される猫も多くて、私の周りにも猫のフンや尿の臭いとか、夜中に屋根をドンと走ってお年寄りの方が夜中に起こされて困るとか、明け方にドーンと音がして目が覚めて困るという方がたくさんいらっしゃいます。私の方も、毎朝、朝起きてからフンの処理が毎日の日課になっています。それほど、ちょっと困っています。そこで地域の会長さんに猫の去勢とか、不妊をすることを皆さんで考えたらどうかということをお願いしたんですけど、自治会ではなかなかちょっと難しいんじゃないかなということで、賛同を得られなかったんです。市からの協力があれば、自治会の方も考えていただけるのではないかなと思っています。とりあえず私1人でボランティアの方、知人の方がいらっしゃいますので、捕獲器を今2台借りて、2月から3カ月、とりあえず捕獲器で捕まえて、今のところメスが3匹、オス2匹に不妊と去勢をしました。そしてワクチンと、ノミとかダニの駆除をして、また地域に放しました。それだけでも少し減ったかなと思ったら、また最近、ちょっと増えたように思います。

【長寿福祉課長】 野良猫が増える原因、先ほどおっしゃっていただきましたように、無責任な餌やりなどの行為が挙げられるのですけれども、松山市では、猫の繁殖を抑えるために、不妊・去勢手術費用の補助に力を入れています。令和4年度からは、クラウドファンディングと言いまして、募金を募って、多くの方に賛同いただきまして、不妊・去勢手術の助成金の予算を大幅に拡大しています。中には、先ほど地域でと言われていましたけれども、野良猫と共存していくために、猫を捕獲して手術を行って数を増やさ

ない取り組みをしている町内会もございます。手術をする場合、どうしても捕獲する必要がありますので、捕獲器を無料で保健所で貸し出ししています。また、地域で猫の捕獲などを考えられる場合、保健所でご相談にも乗れますので、生活衛生課へご相談ください。

【女性】 そこには相談に参りました。そしたら、やっぱり地域の方でしてくださいということで、捕獲器はなかなか数がなくて借りられないんです。それで知人の方から、今ちょっとお借りしているのですが、やっぱり捕獲器ももうちょっと数を増やしていただきたい。助成金も、4月からはあったんですけど、2月、3月にはもう終わってしまいますと言われました。去年の間に終わるそうなんです。それで、助成金をもう少し増やしていただけたらいいなと思っています。今、私も個人の自費でやっています。ボランティアの獣医さんがいらっしゃって、少し安くはいただいています。

【市長】 松山市では、皆さんニュースでご覧になったかもしれませんが、駅の西側にあります、高台の総合公園に、松山市独自の動物愛護センターを作らせていただきました。松山市では、ワンちゃんも猫ちゃんも大事な命なので、殺処分はできるだけしたくないので、令和2年から松山市では殺処分はしていません。本当に弱った状態で引き取られる猫ちゃんが、病気で死んでしまうという事例はあります。私たちの子どもの時は、野良犬がいました。でも、本当に野良犬はほとんど見なくなって、今は猫がほとんどです。やっぱり松山市も限られた予算の中でやっているものですから、不妊・去勢手術費用の補助金は、令和元年は500万円だったのですが、令和2年、令和3年、令和4年は650万円にして、先ほどおっしゃったように、年度の最後の方、2月3月になると、無くなってしまうんです。これを何とかしたいなということで、皆さんからのクラウドファンディングを募って、結局今年は1,470万円まで増やすことができました。これは、皆さんのご協力のおかげなのですが、知恵と工夫を凝らしながら、これからもワンちゃん、猫ちゃんの大事な命を粗末にしないような対策に努めていきたいと思いますので、どうぞご理解のほどよろしくお願いします。

【男性】 今、生活に厳しいという状況ですけど、私は、松山は、国際観光都市にということで、市長の方も市政で考えられていると思うのですが。これは伊予鉄さんとも関係するかもしれませんが、ちょうど上一万の交差点付近が、あそこは交通状況がよく分からないので、みんな嫌がる地域なんです。何差路か分からないんですけど。あの中でも、最近、スーパーABCの前、電停の南側に横断歩道ができて、生活道路として結構利用者が多くなりました。ちょっと話がずれるんですけど、観光都市ということで、外国の方も結構そこら辺を利用される方が多いです。二つお願いを検討いただけたらと思います。実は、外国の方が道後から来た時に、松山城、松山キャッスルが分かりにくいんです。あそこから見えないんです、松山城が。その表示をお願いします。そして、ちょうど南側の横断歩道の部分が舗装されただけで、ひび割れたり、特に雨の日

などは水が溜まったりしています。伊予鉄の鉄道課の方と連携をとってもらって、坊っちゃん列車とか、いろいろ観光資源があるのに、美観的にあまり良くないので、あそこにコンクリート板を置いてもらいたい。東雲校区は、一番町から11カ所くらい横断歩道があるのですが、3カ所ぐらいはスクランブル交差点になっています。そこも最近、大変利用者が多くて、自転車などはいいいのですが、雨の日は特に杖をついた方とかが通行しづらいということがありますので、ぜひ整備の方をお願いしたいと思います。

【市長】 気遣っていただいてありがとうございます。看板のことは、スーパーABCの西側ですか。

【男性】 南側です。横断歩道が最近できました。歩行者も多いんですよ。自転車も。

【市長】 それなら、南側ぐらいの看板。そして、あの辺りの道路の補修ということでよろしいですか。

【男性】 ほとんど県道なんですけど、市はかなり難しいかもしれませんが。

【市長】 大丈夫です。

【男性】 ぜひ観光資源として、外国人が来た時に、キャッスルへの案内が分からないので。ちょうどマンションが多くて、松山城が見えなくなるんですね。

【都市整備部副部長】 ご意見をいただいた上一万駅付近の道路は、現地を確認させていただきました。路面電車のアスファルトがでこぼこになっている状況で、東側にある電停の入口付近では横断歩道の途中にもへこみがありました。私たちの方から伊予鉄道の方に、特に路面電車のでこぼこについては、舗装を新しい状態に直すようお願いをして、なるべく早く舗装を綺麗な状態に直すという回答をいただいています。あと、道路上に関しては県道であるため、愛媛県に同様の形で舗装を綺麗な状態に直していただきたいと整備をお願いしたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

【市長】 さっき気遣っていただいて、市は絡みにくいかもしれないと言われたんですけど、遠慮なくおっしゃってください。松山市内だったら、国道11号とか33号とか56号とか、大体どこか分かりやすいんですけど、場所によっては国道400何号とか300何号とかありますので、どこが国道か、どこが県道か、どこが市道か、市道も松山市の道もあれば、私の道の私道もありますし、農道ありますし、皆さんなかなか分かりにくいと思いますので、遠慮なく言っていただいたらと思います。国だったら国に繋がりますし、県だったら県に繋がりますし、早速伝えます。そして東雲さん、本当に中心地なので、外国人の方をよく見られると思いますが、今、本当にコロナの時は全く動かなかったですけども、人が来てくださって、だいぶお金を落としてくれるので、経済への効果もあろうかと思いますが、欧米の方って平均滞在日数が12日って言われているんですよ。オーストラリアの方はまだ長くて15日って言われているんです。確かに欧米から日本に來られて、1泊2日で帰るわけではないですよ。やっぱり長期滞在ということになります。ですので、日本の方よりゆっくり時間を過ごしているのかなという感じがします。もちろん看板などの整備も考えていくんですが、簡単な英語でいいと思う

んですよ。松山キャッスルとか、道後スパとか。結構簡単な言葉でできますし、携帯を使われる方は、Google 翻訳とか、いろいろ翻訳のアプリもあります。ちょっとコミュニケーションを取っていただいたら、ものすごく外国の方は喜んでいただけるので、もしよろしかったら、何か困っているのかなと思ったら、どうしたんですかって聞いたら、何となく雰囲気は伝わります。外国の方と会話をするのも楽しんでいただけたらと思います。看板の方も考えていきたいと思います。

【男性】 まさに今、横断歩道のことで言いやすくなったんですけど、ロープウェー街には500mの道路があります。そこに3カ所の横断歩道があります。松山市の市道です。2～3年前に道路舗装してくれたと思うんですけど、横断歩道の線が消えてしまったんです。観光文化都市、特に道後、松山城は、今、電車に乗って一番町から歩く客が多いです。今まで大きな事故はありませんけど、横断歩道の線が消えている文化都市は、恥ずかしいです。ぜひこれを見てもらって、今後も対策を練ってもらいたいと思います。よろしくお願いします。

【市長】 もう遠慮なく言ってください。東雲さんから近いところ、緑町に市役所の緑町詰所というところがあるんですけど、ここに新しく名前をつけまして、できるだけ早い対応をするように、みち水路メンテナンス課という新しい課を作ったんです。今、携帯電話にはLINEがあって、LINEをよく使われる方いらっしゃるんですが、LINEで写真を撮って市役所に送ってもらったら、場所も大体の位置情報も、状態も分かるので、すぐさま対応ができる仕組みを作っています。言ってもらった方がいいですから、遠慮なくおっしゃっていただけたらと思います。早速、ロープウェー街に行ってもらいます。

広報タイム①「家具転倒防止対策の必要性」

【男性】 児童福祉、児童相談所の設置の件について、昨年12月の第4回定例議会で、一応、行政側の答弁を広報で読んで、納得はして、分からないこともないのですが、この件について、やっぱりいち早く虐待とか、ヤングケアラーの問題とかを早期発見、早期対応して解決してほしい。そのためには市民に広報や啓発をよろしくお願いします。以上です。

【こどもえがお課長】 松山市では今年度、こども家庭センターを設置いたしました。このセンターでは、家庭からの相談に、保健師や保育士が、電話や訪問で対応するなど、寄り添った支援で、虐待を未然に防いだり、重症化を抑えたりということをしています。一方で、児童相談所は、重篤な虐待があった際に、家庭の方に介入をして、一時的に保護をしたり、児童養護施設への入所を決めたりというようなことをしています。

【市長】 児童相談所は愛媛県という形になりますね。

【こどもえがお課長】 ご意見いただきました、市独自の児童相談所の設置につしまし

ては、寄り添った支援と家庭への介入、これを同じ機関が担うことになり、家庭との信頼関係が崩れて支援を継続することが難しくなるといった課題があります。こうしたことから、松山市では、愛媛県の児童相談所や児童養護施設との連携を深めて、市と県で支援と介入の役割を分担していくことが、虐待の未然防止や家庭支援に有効であると考えていますので、ご理解をいただけたらと思います。

【市長】 先ほどご説明をさせていただいたように、市ではこ相（こそう）という愛称で呼ぶ、こども相談課があります。虐待とか、子育てが辛いという悩みは、朝8時半から夕方5時15分の中で起こるわけではないですよ。それこそ土日祝日もなく、夜もなく、こども相談課の職員は対応しています。直接はちょっと話しにくいんですけど、LINEの相談だったらできるという方もいらっしゃるので、今はLINEで相談ができるなど、いろんな仕組みを使って、虐待が起こらないようにしています。こども相談課で働いている職員と話すのですが、いろんな意見があります。今、愛媛県松山市の中で、どういう形が一番いいと思うか聞いたら、先ほど申し上げた、愛媛県の児童相談所は引き離しの役割になります。こども相談課の職員は、とにかく寄り添う。寄り添って、できるだけ虐待が起こらないようにする。悩んでいらっしゃるなら、どうやったら悩みが解消するか、寄り添う。そういう役割を分担し、連絡を密にしながらやっているという状況です。職員たちもできる限りどうやるのが一番いい体制なのだろうかというのを考えています。もう一つ今回、こども家庭センターを国の流れもあり設置をしましたので、常に、親御さんのことを考えながら、子どものことも考えながら、お気持ちは一緒だと思います。子どものことを考えて、これからも取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくをお願いします。

【男性】 大震災について、さっき説明がありました。震災が起こった時に、水のこと、いろいろテレビなどを見ていたら、手押しポンプの井戸を置いてるんですよ。私たちの地区では、教会に古いポンプがあって、傷んでいたのを取り替えて、新しいのに替えています。それで水位が下がるので、毎日のように、5分くらい汲み上げては流しています。たまたま北持田の方で、子供神輿を納めている倉庫があり、そこは土地の地主が松山市と聞いています。そこへ見学に行ったのですが、その一角に井戸を掘って、手押しポンプをつけられないかと気がついたので、ケースバイケースで、そういうところがたくさんあればあるほどいいと思います。今のうちにやっておけば、活性化させて利用するという面で、非常に安心します。いざという時に、そういう水があると非常に有効ですので、それを考えていただきたいです。

【危機管理課長】 災害用井戸の活用につきましては、災害で断水した時に、水を確保できる有効な対策であると考えています。一方で、井戸の水を飲料水として利用するためには、定期的な水質検査などを行って、常に安全な状態にしておく必要がございます。また、災害直後は、水の濁りや臭いが生じる場合があると伺っています。こうした中で、

企業や個人の井戸を活用して、避難所などでトイレの水を流したり、洗濯に使ったりする事例がありますので、松山市でも生活用水としての活用を検討していきたいと考えています。災害による断水に備えるため、松山市では、飲料水としても使える耐震性貯水槽を市内中心部に4カ所整備しているほか、500mlの飲料水を公民館や小・中学校などに約8万4,000本保管しています。そのほか東雲地区では、平成29年9月には東中学校に、令和5年9月には東雲小学校に、応急給水栓を整備するなど、できるだけ早く飲料水や生活用水をお届けできるように備えています。井戸については、生活用水での活用を検討させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【市長】 この後の広報タイムの災害用マンホールトイレにも関わるのですが、トイレの方は下水の話になります。先ほど言っていた、災害用のポンプのことも、一つ踏み込んでいこうと思っていますので、検討させていただきます。東雲地区には、日赤という大事な病院があるので、ここで上水道が切れてしまっただけではいけないので、市内の中でも強い導水管、上水の管を設置しています。市内の中でも、東西南北で大事な病院があって、そこには水が切れてしまって手術もできない、医療行為ができないとなっただけではいけませんので、そういうようなメリハリをつけながら、集中的にやるべきところをやっています。そういった中で、先ほど申し上げた東中には応急給水栓があります。東雲小学校にも応急給水栓があります。もちろん、無いところも目配りをしながらやっていくのですが、今、東雲地区はそういう状況になっていますので、上水道・下水道、目配りしながらやっていきたいと思っています。

【女性】 現在、東雲地区の人口は、10年ぐらい前に比べて10%ぐらいの増加になっています。マンションがたくさん建ちまして、それによって人口は増えているのですが、町内会に入会してくださる方がほとんどいない。気持ちよく入ってくれるマンションもあるのですが、拒否される場合もある。任意なので強制はできません。いろんな公民館活動などにおいて、公民館を利用する時は市の方から補助が出て使っています。その公民館に対しても、補助金が少しずつ目減りしており、私たち町内会連合会として助成金など、そういう形で補っているところが多いです。町内会に入っていない方は使うなというわけにはいきませんので、やはりそれを公平化するために、マンションの建築時に町内会への加入を勧めるような動きを、松山市として取り組んでもらえるかどうか、お願いできたらと思います。やはり災害時なども、コミュニケーションは大事なことで、よろしくお願いいたします。

【坂の上の雲まちづくり部副部長】 ご質問いただいたのが、町内会の加入促進ということであったかと思います。これにつきましては、現在、市内では中心部が一番多いんですけども、高層のマンションが建設されています。これによって、他の地区でも同じような現象が起こっているところがあり、町内会に加入しない世帯が多くなっていて、同じようなご相談を受けているところです。例えば、マンションが多い地区になります

と、一つの対策としては、普段から入居者の方と綿密にお話をされているような方、管理人さんがいらっしゃると思いますが、こちらの管理人さんを通じて、ご説明をいただくというようなことをされているということで、地域の役員の皆さんにご助言をさせていただいたことがあります。その際に、具体的にもう少しこういうことから町内会が必要なんですよということを説明していただいたことがあります。説明の内容としては、市内各所にある防犯灯は、必要な電気代を町内会さんの方にお支払いをいただいています。ごみステーションの管理についても、当然経費がかかっています。こういった住みやすいまちづくりに役立っていることを具体的に説明して、町内会を続けるためには会費が必要ですよとお知らせするようにお伝えをいたしました。そうしたところ、ご理解をいただいて活動については納得をしていただいたこともあります。地区によって町内会のルールは様々ですので、一概には言えないんですけれども、丁寧なご説明をさせていただく。それによって納得してご加入、もしくは町内活動にご協力いただく。参加を促す手立てについては、まちづくり推進課にご相談いただきましたら、ご助言させていただきます。以上でございます。よろしくお願いいたします。

【男性】 ちょっといいですか。今の話も分かるのですが、町内会の加入が減ると、今度は町内の公民館の負担金も減ります。公民館の活動もだんだんと厳しくなってくる。そのところを良くしてもらいたい。本当に厳しい。公民館の事業もお金がかかるんです。

【市長】 町内会に入ってくれなかったら、公民館活動がやりにくくなるという認識でいいですか。分かりやすく喋ろうと思います。学校教育と社会教育がありまして、学校教育は小学校と中学校になります。社会教育の場が公民館になります。町内会には、我々としては入っていただきたいと思っています。例えば、4階建ての公民館で、エレベーターが無いところがあったんです。今、高齢化してきて、公民館行事に私も行かせていただいて、おじいちゃんやおばあちゃんが一生懸命に階段を上がりながら、「市長さん私ら遅いけん先に行ってください」みたいな光景を見ておりました。これはいかんなと思って、4階建ての公民館は味酒公民館なんですけど、今はエレベーターを設置しました。3階建ての公民館で、まだエレベーターがついていなかったところがあるのですが、今期の公約で、3階建ての公民館でエレベーターついてないところに、エレベーターをつけるということで、今動いています。我々は、公民館活動はできるだけやっていただきたいと思っていますので、そのためにも、町内会には入っていただいた方がいいと思います。やっぱり繋がりがある世の中の方が、子育ても助かるし介護も助かる、防災面も助かるので、繋がりを作っていきたいと思います。これも気持ちは一緒だと思います。よろしくお願いいたします。

【男性】 今日は防災絡みの話が多いので、ありがとうございます。防災士、実は、今日はなんと10名来ています。東雲地区には44名います。松山市の補助をいただいて

集まった防災士の方です。そして、我々は12月に必ず防災訓練をやっています。15年間やっています。そして、一昨年には松山市総合防災訓練に、この東雲地区を利用させていただきました。東中学校を中心に、地区防災訓練をさせていただきました。その後もありますけども、ぜひ防災倉庫という名前の大きな倉庫を作っていただきまして、各地域にはいろんな防災のリアカーとか、いろんなものがございます。それを集めて1か所に集めておく。そういう場所をぜひ作っていただくための補助をお願いしたいと思っています。実は松山市は、防災士が日本で一番多く、9,258名いるんです。ダントツです。そのぐらい防災意識が高いと信じています。その人数にも応えられるように、ぜひ防災倉庫をお願いします。以上です。

【危機管理課長】 松山市では、今おっしゃられた自主防災組織を活性化する補助制度を2種類設けています。防災訓練や資機材などの整備を支援しています。東雲地区では、令和5年度に自主防災会連合会が補助制度を活用してガソリン発電機を購入しました。防災倉庫の設置につきましては、今言われましたように会長からも相談を受けていまして、今後、国の助成制度を活用して発電機やテントなどと、それらを保管するための防災倉庫2基の設置に向けて今検討しているところでございます。今後ともご相談に乗っていただきますよう、よろしくお願いいたします。以上でございます。

【男性】 ありがとうございます。

【市長】 今の感じだと、2基という数字まで出てきましたので、何かできそうな雰囲気ですね。

広報タイム② 災害用マンホールトイレ

【男性】 街路樹の剪定についてお願いしたいです。前は、1年に1回ずつやっていたのですが、最近は2年に1回になったんですかね。間がやっぱり2年に1回になると相当伸びるんですね。また毎年ぐらいにしてもらったと思います。街の美観のためにも、してもらったと思うんですけど、その辺はどうなんですかね。

【市長】 場所はどの辺でしょうか。

【男性】 八坂通りです。

【都市整備部副部長】 街路樹の剪定につきましては、定期的に今までやっています。先ほどおっしゃられたところは八坂通りということで、現状としては2年に1回ということですかね。分かりました。それについては担当課と相談させていただいて、やり方とか、時期とか、また検討させていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

【市長】 今どれぐらいの頻度でやっているのか、帰って確認させていただいて必ず1カ月を目処にお返しますので、確認をさせていただきます。

【女性】 ワクチンの予防接種のことについて、これは意見ではなく要望でございます。

お考えをお聞きいただけたらと思うのは、コロナについては国家を挙げてワクチン接種は無料でしたが、5類になりましてから今後いろいろなワクチンは自費で打たなければいけないとなったと思うのですが、老人にとっては、感染症は最大の死因に繋がる怖いものですので、できましたら带状疱疹であるとか、風疹であるとか、そういうものは老人だけではなく、若い男の方にも、例えば高校生ぐらいで風疹ワクチンを打っておきましたならば、結婚なさって、奥さんが妊娠なさってうつるというような悲劇を防ぐこともできるかなと思うので、これは自治体の努力になるだろうと思うのですが、いささかでもワクチン接種への補助金をお考えいただきたく思います。

【市長】 分かりました。そうなんです、去年の今の時期は、まだ新型コロナウイルスが5類ではなくて2類だったんです。1年前は。5月8日以降から5類になりましたので、5類になって当時はそれこそワクチン接種がありましたけど、もちろん今もありますが、確かコロナのワクチン接種は1万円ぐらいするんです。それを今、コロナワクチンが1万円ぐらいするのを皆さんには3000円で打っていただけるように、7000円分ぐらいを国と市が補助というような形です。先ほどおっしゃった带状疱疹ですとか、風疹、このあたりのワクチン接種について、言えるところをお願いします。

【長寿福祉課長】 おっしゃられたように、ワクチン接種をすることで、感染予防、それから重症化予防されたりするということで、非常に重要な役割を持っています。たくさん種類があって、ここではちょっと申し上げにくいところがあるんですけども、先ほど市長の方からありましたように、国の補助とか、ワクチンそのものの単価を勘案しながら、医療機関とも相談をしながら、ワクチンの方を進めていますので、今日こういったご意見があったことを予防接種担当にもお伝えをして、どういったことが今後、松山市として支援できるのかをまた考えていきたいと思っています。以上です。

【市長】 予防接種法でしたかね。ワクチンのことについては、予防接種法っていう法律がありまして、その中で厚生労働省ということになるんですが、厚生労働省がこれは予防接種しましょうねという事柄について、予防接種をするという形になります。ですので、中には予防接種法に義務付けられていない病気については、なかなか国も補助しにくいみたいなどころがあります。そういう中でやっているという形になるんですが、これも厚生労働省に皆さんのご意見を伝えながら、どちらかと言えば、言っていた方がいいので。市民や県民、国民の声でやっぱり行政は動くものだと思います。言っていた方がいいので、また伝えようと思います。お願いします。

【男性】 先ほどの猫の話にちょっと戻るんですけど、松山市内、市役所が把握している範囲でよろしいんですけども、町内会として、いわゆる去勢とか避妊をする場合、市役所の方で補助金が出ますが、残りの差額については個人が出すか、他の者が出さないといけないんですけども、町内会として補助をしているような町内会はあるのでしょうか。

【市長】 これについては、一旦持ち帰らせていただいて。不確かなことを言ってしまうっていいけませんので。どうでしょうか。

【長寿福祉課長】 実際に町内会でどのぐらい補助しているかというのは把握をしておりませんので、持ち帰らせていただいて、確認をさせていただきたいと思います。申し訳ございません。

【市長】 必ずお返事をさせていただきます。

【男性】 よろしく願いいたします。

【女性】 今回初めてタウンミーティングに参加させていただきました。それで、東雲地区とちょっと離れてしまうかもしれないですけども、街中を歩いていましたら、やっぱりちょっとシャッター街が非常に多くて、寂しい感じがするのと、例えば、先日のような大地震が起きた時に、シャッター街の管理、誰も住んでいないようなところが崩れてしまったりしたら、それもちょっと避難経路を閉ざしてしまうようなことになってしまいますので。例えば、防災公園といいますか、ポケットパークのような、伊予市さんとか西予市さんもどすこいパークとか、大きいものはあるんですけども、そこまで大きくなくても構いませんので、例えば公園のようにして普段は住民の憩いの場にして、いざ災害となったらテントが建てれるような、それこそマンホールトイレとかが付けられているような、いざという時に逃げられる場所というような活用の仕方というのもあるのではないかなと思ひまして、ちょっとお話させていただきました。

【市長】 ありがとうございます。公園の災害時の場所としての利用はどうでしょうか。

【都市整備部副部長】 現在、東雲地区には3つの公園があります。今、新たに公園を作るといのは、ちょっとなかなか厳しいので、もし可能であれば、私ども公園を管理している部門と防災の関係、危機管理課とまた協議をさせていただいて、例えば、既存の公園の中でそういったことができないかというのも含めて、検討させていただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【市長】 東雲さんは、中心市街地、大街道や銀天街が近いので、ちょっとそのことについて触れさせていただいたらと思います。コロナ以前までは、大体、松山の中央商店街の空き店舗率は10%ぐらいでした。これは全国の商店街でも頑張っている数字で、今、やっぱりどうしてもコロナで人が動けなかったですから、やっぱりその間、お金も動かないということで影響がありまして、今、20%近くの空き店舗率です。これは四国の他の県庁所在地、高松とか高知と比べると同程度になります。特別松山がものすごく高いかというと、そういうわけではありません。ただ、今の銀天街さんは旧「GET!」、L字と言いますが、あそこが今止まっているので、商店街の方々とお話をするのですが、模様眺めと言いますか、あそこの再開発が決まったら出すぞ、という雰囲気なんだなというのはすごく感じます。そうだと思います。例えば、東雲さんは三越さんが近いですが、三越さんは残ってくださいました。実は、松山三越は東京でいうと三越伊

勢丹グループになるのですが、そちらに何度も通わせていただきました。今は買い物の仕方が変わりました。昔は商店街に行って、私の高校は銀天街が近くですから、よく土曜日の午後とか、銀天街、大街道まで足を伸ばしましたけれども。もう今、買い方が変わってしまって、インターネットで物を買う方が多くなりました。昔とやっぱりちょっと変わってきた。そういう中で、新潟三越さん、70万都市ですけど撤退されたんです。その頃がやっぱり一番厳しいかなと感じていまして、三越伊勢丹グループに行かせていただいて「松山は観光でこれだけ伸びしろがあります。そしてビジネスでこれだけ伸びしろがあります。残ってください。」と、職員と一緒にお願いをして、残ってくださいました。やっぱり松山は、三越があって高島屋があるので、一方が抜けてしまったら、やっぱり商店街の影響大きいですね。ですので、残っていただきました。三越さんも努力をされて、今、地下1階にはコープさんが入るようになりました。やはりお客様の動きを見ながら、民間の方は動かれますね。今、商店街はそんな状況かと思います。再開発については、松山市の土地に松山市のものを建てるんやったら、私たちが主体的に決めることができるので、比較すると早くできますが、民間さんの再開発になると、民間さんの開発になりますので、私たちは支援をする形になります。民間さんの開発、私たちが公の土地に公のものを建てるのではなくて、民間さんが民間の建物を建てる形になりますと、私たちは全力で支援するという形になります。ですので、今、松山市内の再開発、JR松山駅の再開発がありますが、企業さんと交渉しています。それで、これを言えた方が僕ら楽なんです。皆さん今ね、実はね、ここはね、将来こうなるんです。今こんなところまで話が進んでるんですって、言えたらいいんですけど、言ってしまったら、なんで市長さんそんな途中の話を言ってしまったんですか、破談ですとなったら大事ですね。ですので、今ちょっと交渉中というところで、言えないというところなんですけど、言えるようになりましたら、民間さんの方で主体的に発表される、私たちは全力で支援するという形になります。これからの子どもや孫に残せる、より良い松山を残していきたいと思います。またしっかりと頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

【男性】 今度、道後温泉本館がオープンになります。観光の方も松山にだいぶ来るんじゃないかと思います。私はお城の下に住んでいまして、松山城に上がりたいけど、上がれない。なぜかと言えば、年を取って足が弱っている。ロープウェイで上がりまして、長者ヶ平（ちょうじゃがなる）のところですか、そこから石垣の見える急な坂がしんどくてたまらないです。その後はゆっくり歩きます。景観を配慮して、あそこに優しい道を作れないかなと思っています。何とかならないかな、と思っています。

【市長】 ありがとうございます。手すり、ロープウェイ・リフトで降りて、そこから頂上まで。分かります。もう年を取ってきたら、あの坂がしんどいですよね。雨が降ったらその坂道が滑らないように、滑らないような舗装をさせていただいたりとか、手す

りをつけさせていただくところまではできるのですが、なにせ国の重要文化財なので、ものすごい大がかりな改良というのができないんです。攻められないようにするお城なので、お城の中の階段とか、ものすごい厳しいですよ。ですので、元々攻められないようにしている所なので、ちょっと皆さんの足、高齢化してきたら、私もいずれそうなりますけれども、本当は上がってほしいのですが、ちょっと上がるのが難しくなるなどというのは感じています。昔、こんぴらさんみたいに、カゴを考えたんですよ。本当ですよ、皆さん。カゴを用意して、カゴで持って上がってもらえないかと、ちょっと掛け合ったことがあるんですけど、難しかったです。おカゴの確保と、担ぐ人が確保できなくて。本当はおカゴで、ロープウェイを降りて、リフトを降りて「えっほ、えっほ」と行けたら、とってもかっこいいんですけど、ちょっと現実にやってみたんですけど、難しかったという状況です。でも、いろんな新しい技術も出てきているので。理想としては、やっぱり松山の人ってお城が好きじゃないですか。山頂広場のところに行って「やっぱり綺麗だな」と思ってもらえるような、常に新しい技術とかも睨みながら、やっていければと思っています。お気持ちとても分かります。ありがとうございます。

【市長】 予定の8時半になろうとしています。皆さん、今日はたくさんご意見いただきまして、ありがとうございます。今日の冒頭で、これまでの取り組み状況をご説明しましたように、皆さんのご意見はしっかりと聞かせていただきました。そして、できる限り反映をしようと思います。1カ月を目処に、皆さんには、持ち帰らせていただいたご意見などを回答させていただきます。今日、いろいろと申し上げましたが、どうぞ皆さん、遠慮なく言ってください。市役所と書きますが、市民の皆さんの役に立つ所、市民の皆さんの役に立つ所で市役所じゃなきゃいけないと思っていますので、どうせ市役所に言ったって変わらない、ではなくて、言っていた方がいいですので、どうぞ敷居を高くされずに、いろんなことを言っていただいたらと思います。皆さんの声を基に、行政をやっていくことが大事だと思いますので、また言っていただいたらと思います。長時間になりましたが、本当に皆さんからどんどん意見を言っていて、ありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。今日はありがとうございます。

—了—